

1. 活動の概要

7月1日（月）、松江市立来待小学校『心に残る文化財子ども塾』を開催しました。

内容は土笛作りです。

はじめに土笛について、弥生時代（約2,500年前）の土製品であること、当時の中国大陆によく似た楽器があることから、笛のように吹く楽器である可能性が強いこと、全国で約110点のうち、半数が島根県、特に松江市から多く見つかったことを説明しました。また、実際に遺跡から見つかった土笛に触れて、作る際の参考にしました。

続いて土笛作りです。粘土を卵のようなだ円形にこねて、それを半分に割ります。その際に吹き口と指穴の部分を決めておきます。次に半分に割った粘土の中をくりぬいて、それを貼り合わせます。粘土をくりぬく際に厚みを同じにしたりゆがまないようにするのが難しいようでした。

土笛を乾燥する間に、弥生時代や古墳時代の楽器について、人物埴輪や松江市前田遺跡から出土した琴を説明し、出雲市荒神谷遺跡の銅鐸模鋳品を鳴らしてみました。

最後に、松江市宍道町内で中国横断自動車道尾道松江線建設に伴い発掘調査を実施した白石大谷Ⅰ（はくいしおおたにいち）遺跡から出土した弥生土器を紹介し、触れて見ました。

2. 活動の様子



遺跡から出土した土笛に触れてみました。



粘土を半分に割り、中をくりぬきます。



松江市宍道町の白石大谷 I 遺跡から出土した弥生土器にも触れてみました。

3. 子ども塾を終えて

1) 児童の皆さんから

- ・土笛作りが楽しく、話がよくわかりやすくてよかった。またやりたいです。
- ・土笛作りを弟にも教えたい。
- ・粘土を掘るところが難しかった。

2) 担任の先生から

- ・土笛作りで、実際の土笛を見たり触ったりでき、作り方に意欲がわいたと思います。また、写真などで作り方や地元の遺跡をわかりやすく示していただき、子どもたちにとって難しい話も集中して聞くことができました。
- ・地元の歴史を図書館でもっと調べたいという気持ちになりました。

3) 埋文センターから

土笛を作りたいという児童の熱意に圧倒されました。また、今まで受けたことがないような多くの質問があり、土笛作りが児童の興味をかき立てたことに強く印象を受けました。